

(株)ジーエイチクラフト SAMPE Japan 2005 QTW-UAV、FS2号機を展示

平成17年11月30日～12月2日、ジーエイチクラフトは東京ビッグサイトで行なわれた SAMPE Japan 2005 に現在開発中のQTW-UAVを展示しました。

本機は新航空輸送システム技術研究組合 (NEATS) が実用貨客機として検討を進めているV/STOL機をGH社がUAVとして開発を進めているもので、自立・プログラム制御システムは千葉大学野波教授研究室が共同研究で担当しています。

QTWとは4発テイルト・ウイング (タンデム配置) で、この基本機能を確認する試作機翼幅約1.65m、全長約1.9mです。離着陸は主翼を垂直に立てた状態でヘリコプターのように行い、水平飛行は空中で主翼をテイルトさせて固定翼機のように行います。

FS1号機はJAXA 調布にて風洞試験を行っており、基本的なQTWのコンセプトが成立する事、タンデム プロペラ配置が効果的であること、固定翼機と異なりテイルト翼では失速が起こらないことなどが現在までに判りました。

風洞実験は今後継続しFS2号機の飛行実験のデータとして使用し、FS2号機の飛行制御に必要なデータとします。

展示機体 FS2号機は飛行試験を行なう展示後から'06年3月まで試験飛行を行います。今後'06～'07年、実用ミッション用機体の設計製作へと進みます。



写真1 :QTW-UAV FS2号機



写真2 :SAMPE Japan 2005会場の様子



写真3 :風洞試験中のFS1号機